

平成 26 年度第 1 回岐阜県重症心身障がい児者支援連携会議 議事概要

○日時：平成 26 年 12 月 3 日(水) 18:00~19:40

○場所：ふれあい福寿会館 409 会議室

○出席者： (敬称略)

所属・職名	氏名
岐阜県医師会 常務理事	矢嶋 茂裕
国立大学法人岐阜大学大学院医学系研究科 障がい児者医療学寄附講座 准教授	西村 悟子
独立行政法人国立病院機構長良医療センター 臨床研究部長	金子 英雄
独立行政法人国立病院機構長良医療センター 療育指導室長	愛田 弘美
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 新生児内科部長	河野 芳功
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 小児科部長	今村 淳
岐阜県立希望が丘学園 主任医長	内木 洋子
大垣市民病院 新生児未熟児センター 認定看護管理者 師長	服部 京子
公益社団法人岐阜県看護協会 常務理事	小谷 美重子
訪問看護ステーションやすらぎ 理学療法士	西脇 雅
社会福祉法人あゆみの家 施設長	田口 道治
特定非営利活動法人在宅支援グループみんなの手 代表	渡邊 麻奈美
岐阜市障害者生活支援センター 所長	臼井 隆雄
岐阜市 福祉部 福祉事務所 障がい福祉課長(代理出席:支援係長・野々村 豊子)	高木 健一
岐阜県健康福祉部次長	土井 充行
健康福祉部次長	久保田 芳則
医療整備課長	林 哲
医療整備課 看護企画監	岡田 昌子
保健医療課長	有賀 玲子
保健医療課 母子保健係長	赤尾 典子
障害福祉課 基盤整備企画監	山田 恭
障害福祉課 重症心身・発達障がい支援係長	山脇 裕之
地域医療推進課 障がい児者医療推進室長	都竹 淳也
地域医療推進課 障がい児者医療推進室 障がい児者医療推進係長	山田 育康
地域医療推進課 障がい児者医療推進室 障がい児者医療推進係主査	藤川 祐樹

開 会

開会あいさつ（健康福祉部次長）

議 事

1 重症心身障がい児者施策の進捗状況について

○資料説明

資料1 岐阜県の重症心身障がい児者支援連携施策

資料2 ①在宅障がい児者診療に対する支援 ほか

○質疑・意見交換

（医療型短期入所の充実について）

- ・医療的ケアを実施しようとする福祉事業所が少なすぎる。福祉事業所の意識改革をして医療ケアに取り組む事業所の数を増やす必要がある。
 - 医療的ケアができる事業所を増やすのを最終目標として進めているが、医療的ケアをできる介護職員が増えなければ事業所も増えないので、まずは人を増やす取り組みをしている。

（障がい児者在宅医療等支援センター事業について）

- ・「サポートデスク」について、患者のためだけよりも、これから在宅医療をやってみようとする医療者が医療と福祉の違いを理解するためのサポート窓口ともなるようなものを期待したい。
 - 医療者の方々も含めてみんなで勉強し合える形にしたいと考えている。

（小児の在宅医療の位置づけについて）

- ・小児の在宅医療について、特別なものとして独立して扱うのではなく、多数を占める大人を含めた在宅医療全体の中で位置づけていく必要があるのではないかと。
 - 在宅医療全体の大きな流れの中に小児を組み入れていく必要があると思っている。県でも、組織的にも事業的にも、小児と大人を分けずに一緒にやっていくことができないか検討している。

（重症心身障がい児者の在宅医療を支える医師の拡大について）

- ・大人の短期入所を受け入れるにあたり、糖尿病やがんなど小児科では対応できない例も増えているので、重症心身障がい児者の医療に取り組む医師を小児科以外に広げる取り組みをしてほしい。
 - 今後は内科医や総合診療医が診ていく流れを作るのが重要だと考えている。来年度から実施する、ベテラン医が新たにに取り組む医師を指導する研修などで、流れを作っていきたい。

2 小児在宅医療地域資源調査について

○資料説明

資料3 岐阜県における小児・障がい児医療地域資源調査について

3 県内における短期入所サービスの現状について

○資料説明

資料4 県内における短期入所サービスの現状について

4 平成26年度重症心身障がい児者地域生活モデル事業について

○資料説明

資料5 平成26年度重症心身障害児者の地域生活モデル事業（家族支援）について（国立病院機構長良医療センター）

5 その他

- ・訪問看護と病院の連携ができていない例がある。レントゲン所見など、病院と訪問の間で情報を共有する仕組み作りを進めていただきたい。
- ・医療と福祉の連携が進んでいない。医療の必要度の高い方でも、地域に出ると福祉が支援の中心になる。医療と福祉が連携したシステムを作っていただきたい。

閉 会

以 上